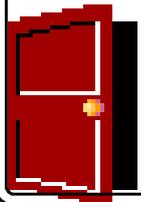


《読書活動の楽しさと大切さを伝えたくて》



# 読書活動への扉を開く！

桑村小学校 令和4年9月22日 文責 渡邊

## 感想を寄せてくださり、ありがとうございます！

『読書活動への扉を開く』をお読みいただき、そして、貴重な感想や意見を寄せていただきありがとうございます。

今回は、保護者の皆様方よりお寄せいただいた声を紹介させていただきます。

「読書活動への扉を開く」（7月11日号を読んで）

子供たちの楽しむ姿が目には浮かびました。

以前、保育園の園庭を開放して、青空の下で絵本の読み聞かせをしたことがありますが、その園の子供たちも、たまたま居合わせたお母さんたちも遊びに来てくれていた子供たちもみんな一緒に絵本を楽しんでいた姿を思い出しました。お話が始まると近づいてきて、絵本の前に座る子、遠くから眺めている子と参加の仕方はいろいろでしたが、子供たちのわくわくした表情は、読み手までわくわくさせてくれたことを覚えています。（1年生保護者）

「読書活動への扉を開く」（8月26日号を読んで）

幼児期は認知的能力よりもコミュニケーション力、自制心、おもいやりの心などの非認知能力を育てるのが大切だときいていました。しかし、児童、青年、大人になっても、やはり、土台となる重要な力だと感じます。SNSに集中してしまうと、子供からの「ねえ、お母さん？」に生返事になっています。五感を働かせる実体験は、日常にころがっていて、相手に心を向けることでしょうか。母親がそれを目標にすることで、息子も同じ姿勢をとってくれたら…いいなあ。（1年生保護者）

「読書活動への扉を開く」（8月26日号を読んで）

夏休みに出掛け先で、待ち時間中の子供の過ごし方が何となく目に入りました。親と話をしている子、ひたすらゲームをやっている子、近くで遊んでいる子と大体この3パターンがほとんどでした。親と話している子や遊んでいる子は、近くに飾ってあるものや建物などに興味を示したり、待ちきれないと楽しみにしている様子が見られましたが、ゲームをやっている子は、ゲームにしか興味がない様子。順番がきたときには「仕方ないなあ」というふうにゲームを止めている姿を見ると、何しにここに来たのかなと思ってしまいました。景色を見たり、これから自分がやることに興味を示したり、近くのお店からいい匂いがするから、「あれ食べたいね」と話すこともせずひたすらゲームの世界に入り込んでしまう。とてもささいなことかもしれませんが、五感を働かせないということは傍から見ると損をしているようにも思えます。ゲームをやりたい気持ちはわかりますが、現実の世界にある素敵なものに目を向ける気持ちを忘れないでほしいです。（2年生保護者）

※五感を働かせることはとても大切なことであると考えます。小学生という発達段階でいかに豊かな五感を育むのかは、これからの子供たちの健全な成長に欠かすことのできないものではないでしょうか。裏面もお読みいただきたくお願いします。

「読書活動への扉を開く」(8月26日号を読んで)

現実の世界から逃げ出したいと思う人間がたくさんいるから今のようなネット社会になったのだと思います。現実には、解決に難しいことが山ほどあります。でも、痛い思いをして産んでくれた母のため、命は大切にしたい。芸能人の自殺、無数の縁のない人からの心ないコメントに傷ついている人は存在しますね。言葉のもつ意味や力を発する側は、理解を深める必要性は高いと思います。(6年生保護者)

「読書活動への扉を開く」(9月2日号を読んで)

自分たちが住んでいる地域の歴史や文化の本や資料を見ることは面白そうだと思います。なんとなく見てる風景にロマンが加わりそうですね。(6年生保護者)

「読書活動への扉を開く」(9月2日号を読んで)

「保護者の方の読み聞かせ」は、とても素敵なイベントだと思います。選ぶ本にも個性や好みが見られるのでしょうか。1年生の親としては、上級生からの読み聞かせVerも、子供たち双方にいい刺激になりそうで、お願いしたいと感じました。(1年生保護者)

「読書活動への扉を開く」(9月12日号を読んで)

暇な時間を潰す為に、味方になってくれるのがゲームだそうです。私も子供の頃はゲームをやってましたが、今ほど種類も内容も多くはなかったと思います。家族でランプをやったり、かくれんぼをしたり、一緒に家事をやれば必然的にゲームの時間は減ります。根気よく環境づくりに親が協力してください。それしかないです。(6年生保護者)

「読書活動への扉を開く」(9月16日号を読んで)

夏休み中の7月の終わり頃、息子と図書館に行きました。何度か行っていますが、今回は夏休みの宿題の一環ということで、気づいたこと、発見したことに注目しようと伝えました。次々と気づいたこと、感想があがり、持ち前の好奇心を発揮し、今までとは少し違う気持ちで、図書館で過ごすことができました。気づいたことも子供ならではの視点のものが多く、大人では気づかないかもしれない、純粋な感想を聞くことができ私にとっても勉強になりました。本を選んだ後、自ら椅子に座り、早速読み始めている姿に息子の成長を感じました。(1年生保護者)

「読書活動への扉を開く」(9月16日号を読んで)

函南町立図書館の一部の本の並べ方は、作者の名前でした。有名な作者の本は、名前で調べられるのだなあと思いました。家にある本も何冊かあったので、同じ作者でも、そこからいろいろな本を楽しめるのも世界が広がりますね。(6年生保護者)

たくさんの素敵な「声」を寄せていただきありがとうございました。皆様方からの「声」を読ませていただくことがとても楽しみです。9月16日号を読んだ意見の中に「気づいたことも子供ならではの視点のものが多く、大人では気づかないかもしれない、純粋な感想を聞くことができ私にとっても勉強になりました。本を選んだ後、自ら椅子に座り、早速読み始めている姿に息子の成長を感じました。(1年生保護者)」がとても幸せに思えました。我が子の成長を認めてくださりとても嬉しく思いました。これからもよろしくお願いします。